

ナゴルノ・カラバフ避難民及びホストコミュニティ支援診療所開所式（UNDP 連携事業）

6月3日、アララト州の3村（Ayntap、Ranchpar、Taperakan）で、日本とUNDPの協力で改修された診療所の開所式が行われました。本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使、ナティア・ナツビリシビリ UNDP アルメニア事務所長らが出席しました。

診療所の整備は、2024年2月に署名された「ナゴルノ・カラバフ避難民及びホストコミュニティのための基礎インフラ・社会統合支援計画」（300万米ドル）の一環で、本事業では避難所や診療所整備、水管理施設の整備やホストコミュニティと避難民との間の信頼醸成の強化等5つの分野を対象にしています。

2023年9月のアゼルバイジャンの軍事侵攻により、ナゴルノ・カラバフからアルメニアに逃れた避難民は10万人にのぼります。避難民の多くは、親戚や知人を頼るなどしながら、エレバンを中心にアルメニア全土に散らばり、先の見えない不安定な生活を余儀なくされています。アルメニア政府も避難民向けの様々な支援を行っていますが、10万人という大規模な避難民を抱えた負担は大きく、本事業はそうしたアルメニア政府の負担を少しでも軽減する狙いもあります。

各診療所の整備により、人々の医療へのアクセスが改善され、より質の高い医療を受けられるようになります。開所式典で青木大使は、避難民とホストコミュニティの人々の相互理解が進み、結束が深まることを願うとともに、本事業の枠組みで今後行われる支援も、地元の人々にとって有意義なものになることを期待する旨述べました。



Ayntapで祝辞を述べる青木大使



UNDP事務所長等とのテープカット式



Ranchpar の診療所前での記念植樹



Taperakan の診療所前で



地元の子供から歓迎を受ける青木大使



太鼓演奏で開所式を祝う地元の子供達